

2021年1月12日

『がん患者本位のエンゲージメント』を目指して」発行のお知らせ ～自分らしく生きることができる社会の実現を目指して～

アフラック生命保険株式会社（代表取締役社長：古出 眞敏）は、『がん患者本位のエンゲージメント』を考える会（座長：武藤 徹一郎）（以下、本研究会）の議論をまとめた書籍『がん患者本位のエンゲージメント』を目指して～がん患者が社会で自分らしく生きるための3つのビジョン～」が、この度、株式会社日経 BP から発行されたことをお知らせいたします。

本書は、本研究会が、がん患者とそこご家族が抱えるさまざまな悩みや問題（ペインポイント）について、2018年5月の発足から約2年にわたり議論してきた内容を提言としてまとめた報告書です。本研究会の座長は、東京大学名誉教授・がん研究会有明病院名誉院長の武藤徹一郎氏が務められ、がん患者団体の代表者、がん診療に携わる医師・看護師、社会学者など、がんに関わりのあるさまざまな立場の有識者がメンバーとして参画しておられます。

本書は、がん患者を取り巻く社会的課題を解決するにあたって、「がん患者本位のエンゲージメント」すなわち「がん患者が主体的に自分らしい人生を生きることができるよう、各ステークホルダーがそれぞれの立場から支援（サポート）を提供し、がん患者はその支援（サポート）を受けながら、双方向に関わり合いつながり強めていくこと」の確立・普及が重要であるとの認識に立っています。

そのうえで、がん患者が社会で自分らしく生きるための3つのビジョン「社会全体でがん患者を生涯にわたって支える」「一人ひとりが安心して納得できる医療/ケアを受けられる」「がん患者が主役となって自分らしく生きるための素養とスキルを身に付ける」と、それぞれのビジョンを実現するために必要な10の具体的なアクションを提示しています。

当社は、「がんに苦しむ人々を経済的苦難から救いたい」という想いのもと、1974年に日本で初めて「がん保険」を提供する保険会社として創業し、社会と共有できる価値(Shared Value)を創造(Create)する企業経営(=CSV 経営)を実践してきました。この度、『がん患者本位のエンゲージメント』の考え方に基づきがん患者を取り巻く社会的課題を解決していきたい」という武藤座長の想いに共感し、本研究会の事務局を務めました。

当社は、本書で提言されている3つのビジョンと10のアクションの実現・実行に向けて、新型コロナウイルス感染症問題によってさらに複雑化・深刻化しているがん患者を取り巻く社会的課題を包括的かつ総合的に解決するために、患者とそこご家族を中心として、医療者、職場や学校、行政、民間団体、企業などさまざまなステークホルダーが連携・協業するためのプラットフォームである「がん患者エコシステム」の構築に努めてまいります。

■ 『がん患者本位のエンゲージメント』を目指して』の発行概要

発行日 : 2021年1月12日
著者 : 「がん患者本位のエンゲージメント」を考える会
発行 : 株式会社日経BP
定価 : 2,000円 (+税)



本書の著者印税分は、全額「公益財団法人がん研究会」に寄付されます。がん研究会は、1908年に日本で最初のがん専門研究機関として誕生し、「がん克服をもって人類の福祉に貢献する」という基本理念を掲げ、一貫してがんの研究と医療に取り組まれています。本書の著者印税分は、未来に向けたがん研究の推進と治療環境の充実、がん患者本位のエンゲージメントの確立・普及に向けた各活動にお役立ていただきます。

■ 座長メッセージ（一部抜粋）

本報告書が、このような大きな変化の時代において社会全体への働きかけや気づきのために活用され、社会のあらゆるステークホルダーが、「がん患者本位のエンゲージメント」の確立に向けてそれぞれの役割を果たすようになり、がん患者が自分らしく生き続けることができる社会ができるだけ早くやって来ることを願っています。

東京大学 名誉教授
がん研究会有明病院 名誉院長
武藤 徹一郎

■「がん患者本位のエンゲージメント」を考える会 メンバー

役割	氏名（敬称略）	現職
座長	武藤 徹一郎	東京大学 名誉教授 がん研究会有明病院 名誉院長
副座長	山口 俊晴	がん研究会有明病院 名誉院長
座長補佐	高田 和男	日本テレビ放送網(株) 客員解説委員
メンバー	天野 慎介	グループ・ネクサス・ジャパン 理事長 全国がん患者団体連合会 理事長
	榮木 実枝	がん研究会 非常勤理事 がん研究会有明病院 前副院長・看護部長・理事
	大野 真司	がん研究会有明病院 副院長・乳腺センター長
	亀井 明	亀井消化器内科クリニック 院長
	桐野 高明	佐賀県医療センター好生館 理事長 東京大学 名誉教授
	細田 満和子	星槎大学 副学長・教授
	武藤 真祐	医療法人社団鉄祐会 理事長

■本書で提言されている3つのビジョンと10のアクション

ビジョン1	ビジョン2	ビジョン3
社会全体でがん患者を生涯にわたって支える	一人ひとりが安心して納得できる医療/ケアを受けられる	がん患者が主役となって自分らしく生きるための素養とスキルを身に付ける
1. さまざまな関係者による相談機会や情報の積極的な提供	4. さまざまな医療者によるがん患者本位のコミュニケーションの実現	8. 医療/ケアを受ける時の基本的な素養の習得
2. がん患者の状況や悩みに応じた「開かれた相談の場」の提供	5. 病院内におけるチーム医療の普及と定着	9. 正しい医学情報を提供する仕組みと場の整備
3. がん患者への就労支援と経済的支援制度の周知	6. 地域における終末期を含めた総合的なケアの提供	10. がん教育の普及と充実
	7. 一人ひとりに合わせたがん医療の普及と周知	